

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい者就労支援センター愛・あいネット		
○保護者評価実施期間	令和8年2月5日	~	令和7年2月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年2月10日	~	令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	本事業所は、利用児童の発達段階に応じた支援機能の選択を重視し、とりわけ中高生期における移行支援を中心に実施しています。 学齢期に応じて、事業所の選定を検討する保護者様の場合、選択肢が少ないということが良く聞かれます。 特別支援学校高等部卒業後の進路を見据え、就労および地域生活への円滑な移行を目的とした支援体制を整備しています。	卒業後を見据えた運転免許の取得支援 集団活動を通じて、実践的な経験の機会を確保し、試行錯誤を重ねられるよう支援している。	来年度は小学生低学年の利用が予定されており、今まで利用層では想定ていなかった児童の受け入れをおこなうため、プログラムの充実化を図り幅広い年齢層に対応できるようにしてく。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	昨年に引き続きだが、ペアレントトレーニングや、保護者会の実施等、保護者に対する支援体制が不十分だと感じる。	当事業所の利用児童の保護者様の殆どが働いているため、これらの機会を設けるには平日では難しい。そのため、事業所の開所日以外での開催を検討する必要があり、積極的に動くことができなかった。	保護者会の実施については、現状の保護者様に個別に要望調査をおこない、希望多数の場合は実施する。 ペアレント・トレーニングに関する職員向け研修の案内が合った際は、職員に積極的に受講させる。
2	職員と児童の一対一での個別支援体制が不足している。	現状では、集団活動でのプログラムを中心としていることから、個々のニーズに応じた個別支援は十分にできていない。職員配置を考えた時、個別支援の頻度を上げることは事实上難しい。	個別支援の充実については、今後の課題として認識している。より細やかな個別対応のためには、職員配置や部屋・区画の整備から検討する必要がある。
3			